

利根中央病院

病院 だより

第32号
2013年新年号

企画発行 利根中央病院地域連携室
〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1855-1
電話 0278-22-4325(直通) FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>

理念と方針

理念 安心と安全 参加と協同
患者中心のチーム医療

方針 救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
診療情報提供と共に作る診療計画
広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり

謹賀新年



今号の特集

✖ 院長年頭挨拶

利根中央病院 院長 糸賀 俊一

✖ 「夢をかたちに」 新病院建設進捗状況

新病院建設事務局長 布施 正子

✖ 第6回 院内災害訓練紹介

外科部長・救急科部長 関原 正夫

✖ きらめき祭開催

「きらめき祭実行委員会」



あけまして おめでとうございます

利根中央病院
院長 糸賀 俊一



昨年は利根中央病院にとって新病院建設に向けて一歩前に大きく踏み出した年でした。2012年の医師体制は、全日本民医連からの1年間の医師支援が3月末をもって終了しましたが、4月より新たに初期研修医3名が加わりました。実質減となった医師体制にもかかわらず、入院患者数は前年とほぼ同等、外来患者数は2%増加になり、新病院建設に向けて医師を先頭に職員一同『夢をかたち』のスローガンのもと奮闘してまいりました。新病院の骨格も徐々に見え始めたなか、昨年末に耐震化補助金を申請し、それによる医療計画、建築計画の変更への対応等、非常にめまぐるしい変化の多い年でした。

本年は新病院建設に向けて、実施設計を固め秋には着工する予定になっており、介護分野を含めた「利根保健生協5か年計画」の具体化を同時に検討し進めていく年になります。多くの課題に対応しながら着実に前進しなければなりません。

昨年末、民主党から自由民主党に政権が変わりましたが、大きな医療政策の変化は今後も期待できないと思われ、昨年からは始まった“税と社会保障の一体改革”のもと、医療介護の変革は今年も着実に推し進められるものと思います。それに対応し地域の皆様からの要望を多く取り入れ、「地域包括ケアシステム」の新たな構築に向け、病病連携・病診連携による住みやすい街づくりを目指していきたいと考えています。

新病院建設に向けて今年は3段跳びでいう“ホップ”の年に当たります。職員一同、昨年からの思いを“かたち”にしたいと願っております。

新年にあたり、皆様方のご健康とご多幸をお祈りします。本年もよろしくご指導お願いいたします。

夢をかたちに

新病院建設進捗状況



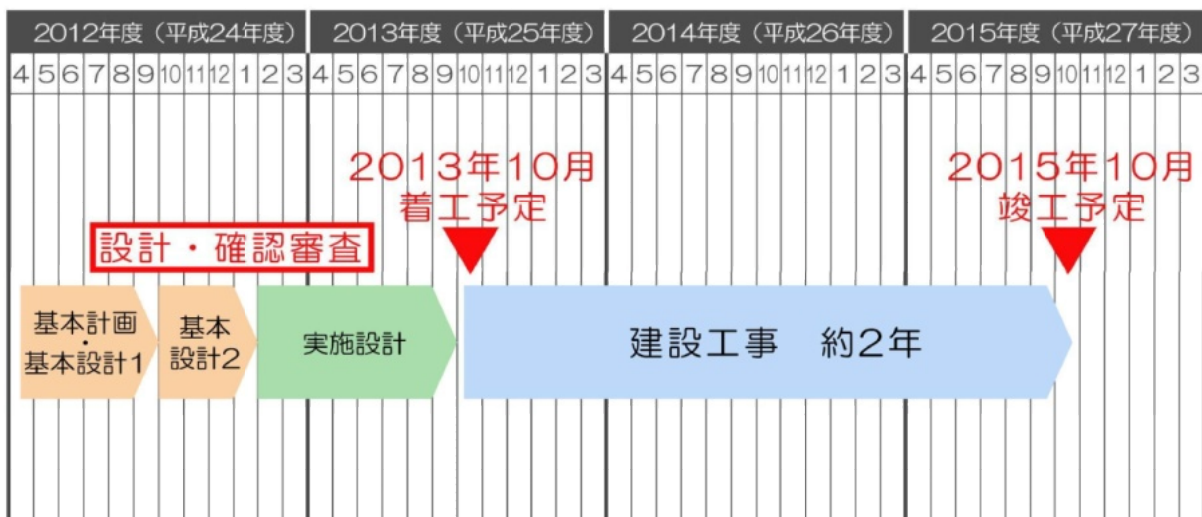
新病院建設事務局長 布施 正子

2012年6月、「沼須産業団地への病院新築移転」が決定されました。地域の人々のいのちとくらしを守るため、健康づくりとまちづくりの拠点となる病院にします。総合診療機能を有し、救急医療に責任を持つ病院にします。という大きなコンセプトを実現するために、この間、4つのWG(ワーキング)、「病棟WG」「外来WG」「療養環境WG」「健康づくりWG」と、「回復期リハビリ病棟PJ(プロジェクト)」「HCU(ハイケアユニット)PJ」と2つのPJを立ち上げ、検討を重ねています。療養環境WGと健康づくりWGには、地域のみなさまにもご参加いただき、職員と一緒に論議を深めています。

具体的には、病院内での機能分化を図り、患者さまの重症度により看護配置を高くする。また退院へ向けたリハビリ支援の充実など、安全で安心な医療の提供を更に進めていきたいと思ひます。1階フロアーは、診療ゾーンと予防・健診ゾーンに分け、健康づくりにも力を注いでいきます。健康プラザ内に「多目的室」を設置し、健康教室を開催するなど、ハードに負けないよう、ソフト面でも患者さまや地域のみなさまの期待に添えるよう、更に論議を進めていきたいと思ひます。

2013年はいよいよ着工の年。一人ひとりの想いがかたちとなるよう、努めてまいります。

新病院建設全体スケジュール



第6回 院内災害訓練



外科部長・救急科部長
関原 正夫

災害拠点病院の指定要項に多数傷病者対応訓練が必須とされた中、第6回の災害訓練が平成24年11月17日に行われました。病院は、地震や火災など病院自体に被害が及ぶ場合と事故などの多数の傷病者が来院する場合の両方に備えなければなりません。

今回の訓練は「利根町での旅館ガス爆発事故、負傷者90名のうち約40名が当院に搬送される」という想定で開始されました。

【訓練全体の進行】

玄関前トリアージの様子

消防からの情報で災害対策本部を立ち上げる。

職員を召集し、人員配置を行う。

病院の玄関前で救急隊と共に簡易的な重症度判定を行う。

病院内へ重症度別に傷病者が搬入される。

傷病者の診療を行い、必要な緊急処置や検査を行う。

傷病者の情報が災害対策本部へ伝えられる。

入院や転院が決定され、根本的な治療が開始される。



【当院における災害対応の特徴】

職員の人員配置：あらかじめ役割を決めておらず、召集された職員ひとりひとりにカードが配布されます。そのカードには業務内容や活動場所が書かれており、それに沿った業務を行えば良いことになります。訓練参加者は、カードが手渡されるまで業務内容はわかりません。平日にも休日夜間にも対応できるのが特徴です。

傷病者の診療：災害に関して専門的な教育を受けた院内認定看護師（災害に特化したトリアージナース）が行うことになっています。

災害時には、普段の救急とは違う対応が求められるため、病院全体の診療能力を向上させるために、これらのトリアージナースが重要な役割を担っています。

種々の傷メイクを施された42名の模擬傷病者が次々と運ばれ、重症度判定や診療がなされて行きます。診療のみならず、傷病者情報が途絶えてしまえば根本的な治療が不可能となってしまうため、その情報の管理についても重要視しています。中には途中で容態が急変する傷病者もあり、実戦さながらの訓練となりました。



イエローゾーンに配置された職種・リーダー等の一覧

終了後には災害時の現場の活動を知ってもらうために、利根沼田広域消防本部の救助隊・救急隊に加え、当院のDMAT隊（災害医療班）を交えた傷病者救出のデモンストレーションを供覧しました。

当院の災害訓練・教育プログラム・カード型マニュアルについては、「群馬県救急医療懇談会」にて定期的に報告しており、災害に特化したトリアージナース教育も複数の病院から依頼を受け、群馬県内で総勢250名を超える数となりました。

今回の訓練では、事務系職員に対する教育も必要との反省がもたれました。そこで、トリアージナースだけではなく、事務系職員に対しても災害に特化したプログラムを構築し、その教育をおこなって行くことが確認されました。



多職種による連携で治療が行われます

新病院建設用地で 盛大に開催

10月21日(日)利根中央病院「きらめき祭」が、沼須町の新病院建設用地で開催されました。約3000人の来場者があり、建設地の認知度も高まりました。

新病院紹介コーナーをはじめ、歯科相談、介護相談コーナーなどが設置され、職員が出店した焼きそば、綿菓子、ポップコーン、ヨーヨー釣りなどの模擬店が並びました。



職員による模擬店が24店舗並びました

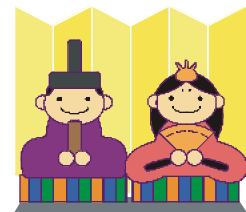


新病院建設紹介テント



盛り上がりを見せた会場の様子(メインステージ前)

ちょっと早いですが…



寒い日が続きますが、
暖かな春を感じる置物を発見しました



精神神経科外来：受付